

数学特別講義C

数学総合講義F

多様体論特殊講義A

数川 大輔 講師
(東京都立大学・准教授)

談話会	<p>6月29日(月) 16:00~</p> <p>「高次元安定分布の集中現象 -直積vs回転対称」</p> <p>高次元の確率分布にはしばしば集中現象と呼ばれる「偏り」がみられる。集中現象は高次元分布を理解する上で重要である。今回は安定分布という中心極限定理の一般化に現れる確率分布に対して、その集中現象を調べる。集中現象はGromovによる測度距離空間のある収束概念によって幾何学的に捉えられることができる。安定分布の中でも直積と回転対称という両極端な場合で集中現象は大きく異なることが分かったのでご紹介したい。本講演は江崎翔太氏(東京理科大学)、三石史人氏(福岡大学)との共同研究に基づく。</p>
講義期間・ 題目・ 内容	<p>6月30日(火)~7月3日(金)</p> <p>各日 15:00~18:00</p> <p>題目「測度の集中現象に基づいた測度距離空間の収束理論」</p> <p>測度の集中現象とは、高次元空間にみられる測度の偏り現象のことである。Gromovはこの現象を空間の収束理論と結びつけ、リーマン多様体などの空間列の高次元挙動の研究を創始した。本講義では、測度の集中現象について簡単に解説し、それに基づいた測度距離空間列の収束理論について最近の進展を紹介する。最近の進展として特に、回転対称分布の測度集中について、リッチ曲率や集中不等式など様々な観点から解説するつもりである。</p>
会場	川井ホール